

**課題解決型高度医療人材養成プログラム  
事業の概要と推進委員会からの主なコメント**

〔取組1〕医師・歯科医師を対象とした事業  
（1）横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成  
テーマ：病院経営支援に関する領域

		整理番号	10
申請担当大学名 (連携大学名)	慶應義塾大学		
事業名	ケースとデータに基づく病院経営人材育成		
事業責任者	大学院健康マネジメント研究科委員長・医学部教授 武林 亨		
<b>事業の概要</b>			
<p>経営管理研究科が50年の歴史とともに育んできた慶應型ケースメソッドは、いわゆるケーススタディとは異なり、教材（ケース）を用いて学習者同士の討議を繰り返すことで、学習者が主体的に学び、自ら考え実行する実践力を身につける教育手法である。本事業は、革新的な医療技術開発と実践の最前線である大学病院において、構想力、戦略的な意思決定、実行力に富んだ実践的な経営リーダーを育成するため、本事業費によって、慶應型ケースメソッドに則ったケースディスカッションをベースとする病院経営人材育成プログラムを、病院経営人材育成の実績を有する健康マネジメント研究科と経営管理研究科に横断的かつ融合的に構築するものであり、ケース教育開発センターを設置して本事業推進の中核とするとともに、センターを通じてその成果（ケース）を教育手法とともに公開し、他大学・大学病院や地域基幹病院の経営人材育成にも広く資することとする。</p>			
<b>推進委員会からの主なコメント</b> ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○教育プログラム内容の質も高く具体性もあり、事業の実現が期待できる。 ○既存の研究科の発展的な教育プログラムであり、設置開講科目の具体性に優れている。 ●事業計画の中核の一つとなるケース教育開発センターの設置及び詳細な運用が不明であるため、同センターの機能や運用方法等を明確にすることが望まれる。 ●MBA-MPHデュアルディグリープログラムは既存の両プログラムにある科目を統合した仕組みであり、新規性に乏しい。</p>			